

## スズメ蜂の襲撃から蜜蜂を守るために

様々な害敵があるなかでも、蜜蜂にとって最も強力な相手がスズメ蜂であることには誰にも異論がないだろう。それに対して、残念ながらこれで完璧と言えるような防御手段が無いのが現実で、色々な駆除方法を組み合わせながらも、やはりできるだけ見廻りを欠かさないようにするしかない。その際、注意をしなければならないことがある。オオスズメ蜂が蜜蜂巣箱を集中攻撃しているところを発見しても決してそのまま素面で近寄ってはならない。襲撃フェロモンをふんだんにばらまいて興奮状態であるので、人間にも見さかいかなく突進してくることがある。

(1999年には、ベテランの養蜂家が2人も命を落としている。)

以下は対策例。

### 1. 捕殺器の取り付け

形式は色々あるが、当養蜂場では安価で捕殺効果の高い中村式(栃木)を使用している。網の目はオオスズメ蜂はもちろん、キイロスズメ蜂も通さないような大きさになっている。トラップは2段になっていて、誘い込まれたスズメ蜂は必ず2段目まで這い上がるので、トラップの中で蜜蜂が噛み殺されるような争いが少ない。捕殺器の前方が上の方に傾斜していて巣門前の空間が広く開放されているのは、スズメ蜂を積極的に誘い入れるためである。事実、よく入ってくれる。(あくまで捕殺器であって、防御器ではない。) そのほか、誘導孔の位置なども改良されている。

### 2. 粘着剤(ネズミ取り)の利用

オオスズメ蜂は他の蜂の巣を集中攻撃する習性があるので、逆にその習性を利用して捕殺する。まず飛来してきた一匹を粘着板で捉え、それをそのまま巣箱の上に広げて放置するだけで良い。とりもちで身体の自由がきかなくなったスズメ蜂は、もがきながらも体表から攻撃フェロモンを発散させるために、仲間が次々と舞い下りてきては粘着板に捉えられることになる。多い日には1度に数10匹もかかることがあるが、他種のスズメ蜂にはまったく効果がない。

### 3. 発酵糖液のトラップ

スズメ蜂の成蜂は、巣内で幼虫に他の昆虫の肉ダンゴを与えて養う一方、幼虫からは逆にある種の栄養液を受けとって、エネルギー源としている。(栄養交換——成虫は固形物は消化できないような消化管の構造になっている。)

また、野外ではクヌギなどの樹液を好み、果物や蜜の発酵した液体にもひき付けられるので、これらを材料にしてトラップをしかけることができる。

まず、黒糖や蜂蜜に水を3倍量程度加えてよく混ぜる。一昼夜ほどで発酵するので果実酒などの大きめの広口びんに底から3～5cm程度の深さになるよう注ぎ込む。糖液が濃過ぎると発酵が進まず、また蜂場に設置すると蜜蜂まで誘引してしまうことがある。市販のパン焼き用イースト菌を少量加えると発酵が早く進む。蜜蜂が活動しない時間帯や寒い日により効果がある方法。